

私が育てたという品質保証！

荒木 貞夫さん

今回ご紹介するのは
箕面市坊島地域にて
農業をされている
荒木貞夫さんです。

先祖代々の農地を引き継いで 18年。家族で協力して農業を。

代々農業をしており昔から農業を手伝つておられた荒木さん。成人してからは企業に勤めておられたので、休日に農作業をされていましたが、18年前の退職を機に本格的に農業を始められました。

現在は、3世代7名で同居され、荒木さんが主となって農業をされていますが、息子さんのお嫁さんである若奥様も農業を一緒にされていて、農業の修業中だそうです。また、休日には息子さんやお孫さんも農作業を手伝つてくれるそうです。

自分自身の名前が品質保証。

「家族や野菜を買っててくれる方に安全で安心な野菜を食べてもらいたい！」と、農薬や化学肥料をなるべく使用しない有機栽培をされておられる荒木さん。様々な研究結果で農薬や化学肥料も適正に使用すれば、安全全であるとされています。ただ、有

機栽培の野菜を求める消費者の声はよく耳にします。

荒木さんが栽培している野菜は自分が作ったということが保証に繋がるように、栽培方法にこだわっておられます。

農業を始めた当初の3~4年は農薬や化学肥料を多用しておられたそうですが、今では、できる限りその使用を抑えよう。

と、鶏糞や牛糞堆肥と油かすを土に混ぜ、農薬や化学肥料はなるべく使わない有機栽培に取り組むようにしておられます。

「スーパーで売っている綺麗な野菜は農薬や化学肥料を使っていると思います。やはり、有機栽培をすると虫による食害が

多數あります。綺麗な野菜を求める方も多いためですが、虫が食べているからこそ、安全で安心なものを私は食べたいと思いま

す。だから、消費者の方にも私の育てたものを、安心して食べていただきたい。『私が育てた野菜は自分自身の名前が品質保証』と話す荒木さん。





野菜の栽培には、今までどれだけ暑くても、多量に使っても、一度も枯れたことがない井戸水を栽培に使っています。



**農業は大変。でも、良い作物が収穫出来たり、孫が美味しいと
言ってくれると嬉しい。**

「農業は大変なことばかりです。自然相手で波があるし、楽なことではないです。昔はお米を作たら儲かると言っていた時代もありますが、今では、利益につながらないです。ただ、農業をしなければ、代々引き継いだ農地は草だらけになりダメになってしまします。私の農地の周辺も世代交代が進むに伴って、畑や田んぼがどんどん無くなってしましました。」と話す荒木さん。

箕面市の坊島では鳥獣被害は少ないのですが、毎年5月にやつてくる渡り鳥に、育ていた春キャベツやエンドウ類を、わずか2、3日で全滅させられてしまつたことも。また、昨年の夏の暑さで水やりが大変だったり、毎年、上手に出来るイチゴの苗作りが今年は失敗したりなんてこともあります。でも、良い物が収穫できると嬉しく、家族に自慢するそうです。

荒木さんご家族の食事は、若奥様がその日の食卓に必要な野菜を収穫し調理したものが食卓に並ぶそうです。その料理をお孫さんが食べて野菜が美味しいと言つてくれる事がすごく嬉しく、やりがいに繋がるそうです。

農業は健康維持に欠かせない。



2月に旬を迎えているネギ、キヤベツ、ブロッコリーなどはもちろんオススメですが、親の代から受け継いでいる種芋を使った里芋や自然薯は特にオススメだそうです。

里芋は親芋と子芋などが出来るために収量は増えますが、自然薯は1つの種芋から1つしか獲れないので、収量は少ないです。でも、代々受け継いでいる種芋から出来る里芋や自然薯は絶品なので、これからも作り続けていきま

栽培している品種で オススメの野菜。

詩吟や菊の栽培など 豊富な趣味。



勤めていたダイハツ工業の「歩こう会」に定年前から所属しておられ、様々な場所に行かれていました。他にも、詩吟や菊の栽培もされています。

荒木さんの詠まれた俳句は、この「ほくほく」の俳句コーナーにも投稿してくださっています。そのほかにも菊の栽培を趣味とする荒木さんのご自宅には高さ1mを超える立派な菊がたくさん飾られていました。

この小さな芽を5月頃に植えると11月頃には大きくて立派な菊に生長するそうです。

